

ホタテガイ採苗速報

付着数が5万個/袋以下の場合、袋替えを控え稚貝を多く確保 稚貝の輸送の際には、温度や乾燥、酸素に注意

1 各地採苗器への付着状況

6月2～6日に行った第1回臨時付着稚貝調査の結果は、表1、2および図1～3のとおりで、ホタテガイ稚貝の平均付着数は西湾で5,297個/袋、東湾で21,043個/袋（第1回全湾一斉付着稚貝調査時はそれぞれ2,491個/袋、79,353個/袋）でした。

稚貝の平均殻長は西湾で1.42mm、東湾で1.28mm（第1回全湾一斉付着稚貝調査時はそれぞれ0.80mm、0.84mm）でした。

キヌマトイガイは全湾平均で1,557個/袋、ムラサキイガイは全湾平均で2,389個/袋でした。なお、ウミセミとヒトデの付着は全湾で見られませんでした。

2 今後の見込み

付着稚貝数は全湾的に少なく、投入時期や水深によってばらついており、袋に偏っている場合もあります。

過去の調査において、付着数が5万個/袋以下の場合には、袋替えをした方が大きな稚貝の割合が高くなりますが（図4）、種苗として利用できる殻長6mm以上の個体数は袋替えを行わない方が多くなる（図5）ことが分かっています。そのため、今年のように付着稚貝数の少ない年には、袋替えを控えた方が稚貝を多く確保できます。

ただし、一袋当たり数十万個の稚貝が付着している場合には間引きが必要です。採苗器ごとの付着状況を確認し、確実な間引きを行ってください。東湾で目に見えるサイズ（殻長2～3mm）で間引きができるのは、6月下旬からの見込みです。

付着数の多い地区では、付着数の少ない地区への稚貝、採苗器の融通に協力してください。融通については、前号（第8号）を参照してください。

稚貝の輸送の際には、温度や乾燥、酸素に注意してください。船での輸送の際には、直射日光が当たらないように麻袋をかけ、海水のかけ流しもしくはこまめに換水して下さい。小さな稚貝は物理衝撃にも非常に弱いため、丁寧に扱ってください。

稚貝採取の詳細な時期については、6月20日に第2回全湾一斉付着稚貝調査（中層1袋、間引きを行った場合は間引きの前後各1袋）を実施し、6月23日発行予定のホタテガイ採苗速報第10号に掲載しますので、参考にしてください。

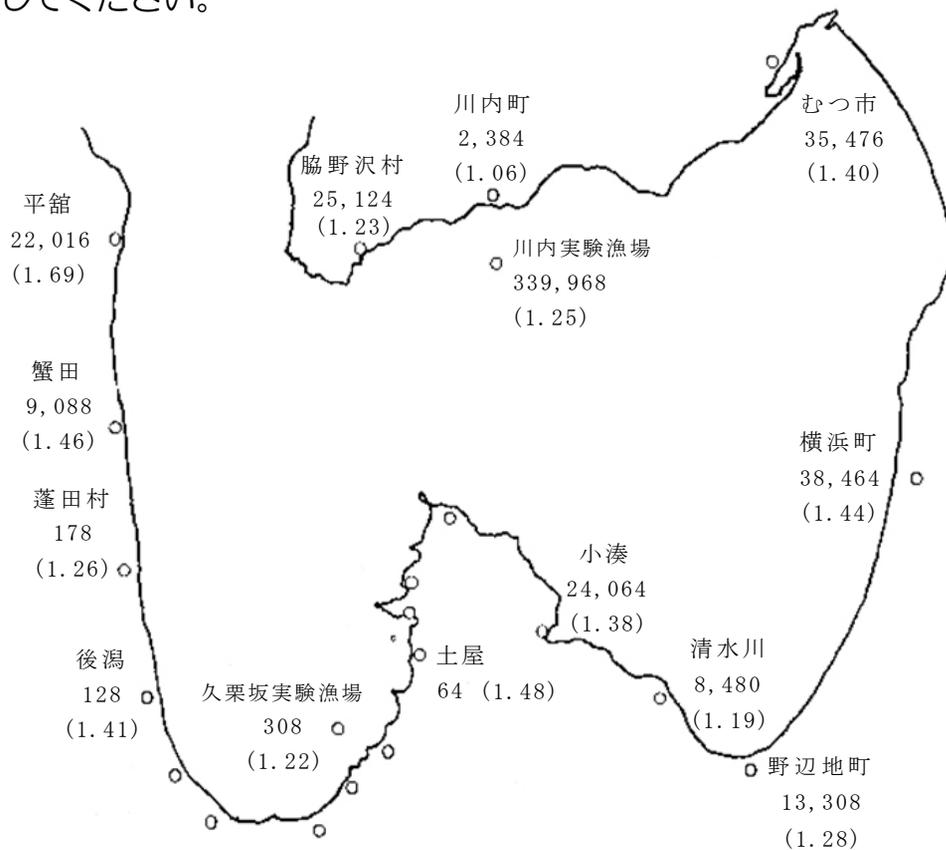


図1 調査地点毎のホタテガイ付着数[単位：個/袋(平均殻長mm)]

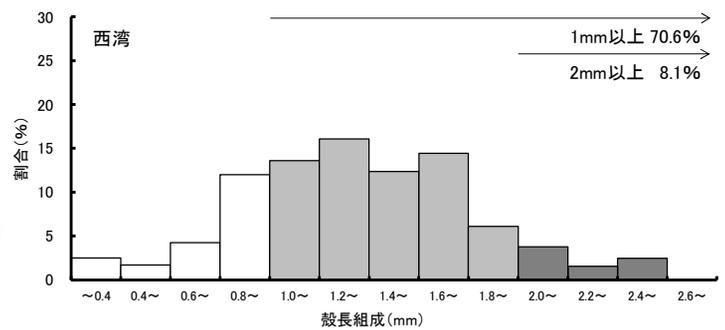


図2 臨時付着調査時のホタテガイ殻長組成（西湾平均）

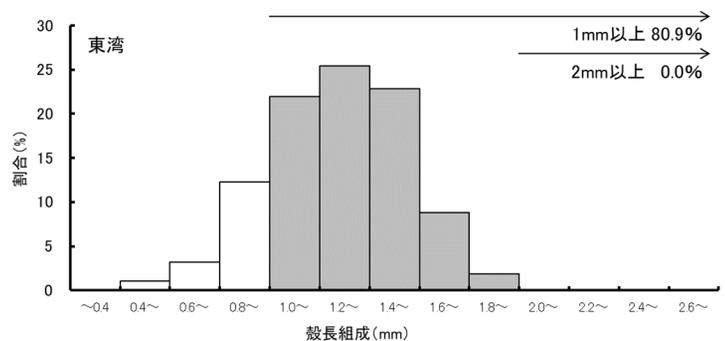


図3 臨時付着調査時のホタテガイ殻長組成（東湾平均）



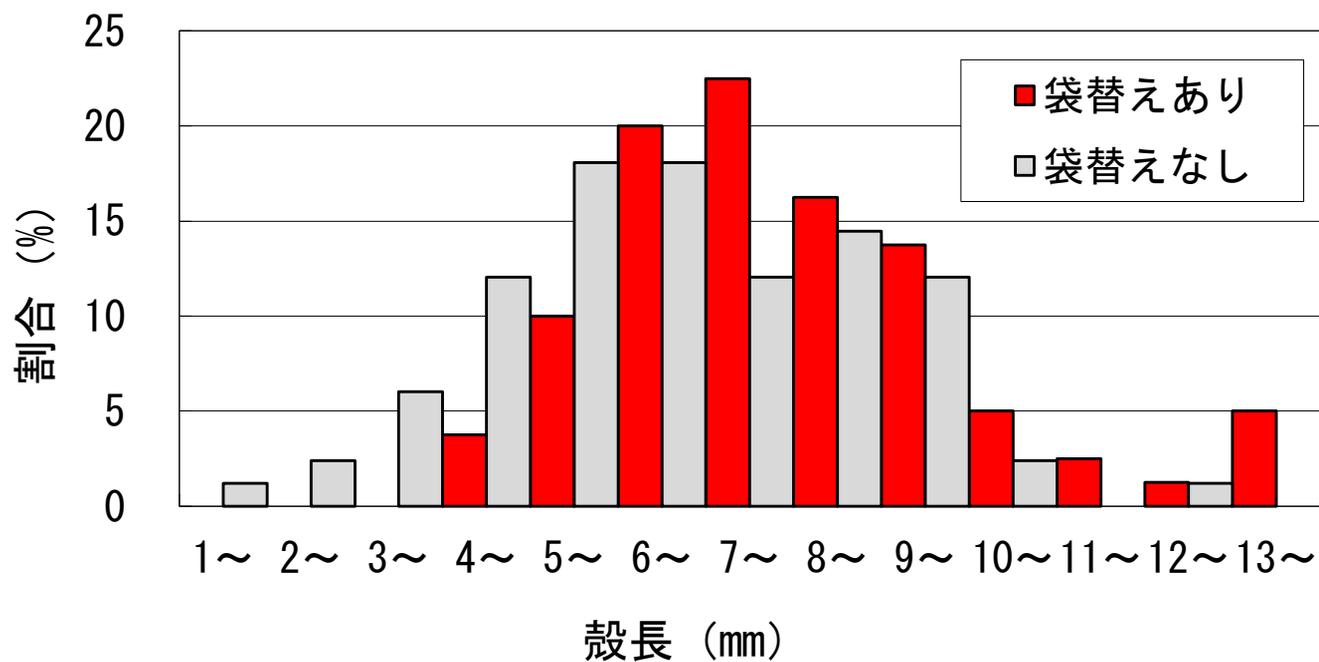


図4 袋替え有無別殻長組成

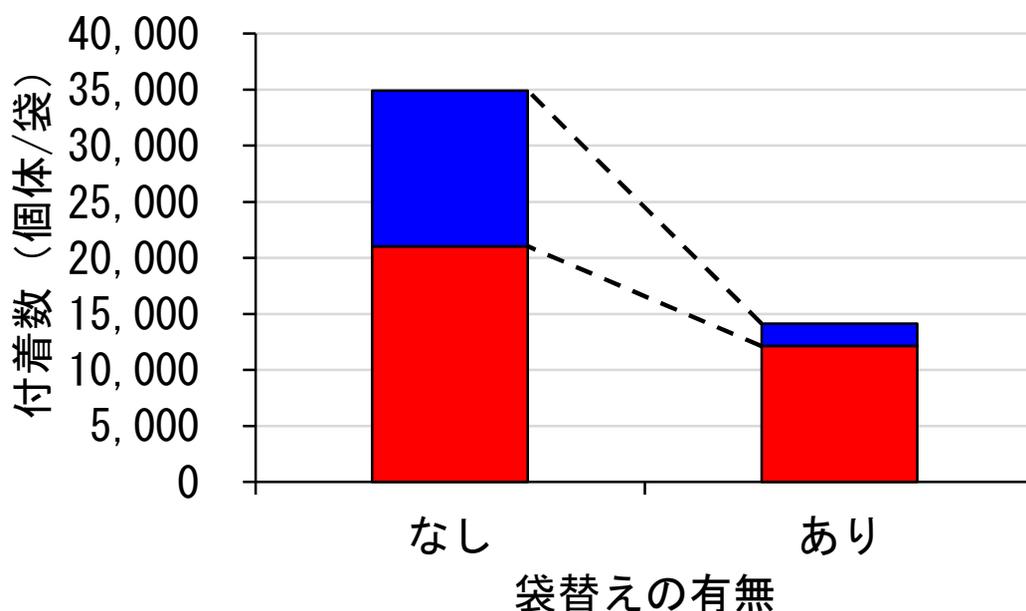


図5 袋替え有無別附着数

赤色は種苗として利用できる殻長6mm以上の稚貝、青色は殻長6mm未満の稚貝を示します。

※袋替えおよび間引き作業の注意点

- 採苗器の状況を十分に把握する（稚貝の附着数は地域、垂下水深、投入時期等によって異なる）。
- 稚貝へのショックは出来るだけ少なくする（間引きを行う場合は、流網などの附着基質を上下に振るだけにして船べり等に叩き付けない）。
- 採苗器へ残す稚貝の数を自分の目で確認しながら適正にする（2万個程度になるように）。
- 作業後は、施設を安定させる。